

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お年寄りを敬う」という会社全体の理念を掲げ、グループホームとしての独自の理念を「その人らしく、その人のために」「地域の一人として生活する」として、実践できるように努めています。	グループホーム独自の理念をホーム内に掲示していて、全職員がその実践に向け日々努力している。事業所全体の理念はパンフレットには掲載されているが、ホーム独自の理念の掲載は今後実施していく予定。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域交流会の開催や運営推進会議を通じて、地域の方々とのつながりの構築に努めています。今後は日常的な交流の機会を増やしていきたいと考えています。	地域を主体にした馴染んだ交流がある。運営推進会議や飯山市との連携・日常的なご近所との関わり・災害時の協力などが一体化できていて、それぞれが繋がっている。	理念にも掲げているように「暮らし」とは事業所の中だけで完結するものではなく、その実践ができていて、事業所が基盤を築き始めています。今後も日常的に積極的な取り組みを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「困ったらゆりかごに相談すれば・・・」との位置づけになれるように、相談窓口の開設、認知症支援・啓発活動、グループホーム見学会などを計画しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、活動報告、事業計画や実践結果についての話し合いを行い、助言、ご意見をいただきながら、サービスに反映できるように努めています。	会議の必要性や目的を理解しているメンバーで構成されている。地域住民や利用者家族・行政・区長などのメンバーと具体的な改善課題を話しあっている。会議記録からその意見は運営や事業に反映されていることがわかる。	会議は報告や情報交換にとどまらず、地域の理解や支援を得るための機会になっています。そして貴重な意見をいただくことができていますので、メンバーの名簿を作成するなど形にする工夫があると良いと思います。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で連携をはかれるように努めるとともに、今後は地域からの相談窓口としての機能を強化し、各事例を地域包括支援センターにつなげるなどの連携をはかっていきたいと考えています。	運営推進会議で市担当者に事業所の考え方を理解していただくことができていますので、直面している課題解決に向けた話し合いや情報交換をする取り組みはできています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議やミーティングにおいて、身体拘束に関する理解を深め、拘束による弊害についても把握するようにしています。また、利用者の尊厳を守ることを常に念頭に置き、拘束をしないケアに取り組んでいます。	日常的に拘束しないケアについて職員間で話し合い確認しあっている。北信地区のグループホーム部会での勉強会のテーマに取り上げるなど内外での研修に積極的に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、理解を深めるよう努めています。虐待予防のため、利用者の権利を侵害していないかを常に意識しながら支援を行い、ケアの質を高めることを心掛けています。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、ご家族が日常生活自立支援事業を活用されている方がいらっしゃるが、今後も必要な方がいれば適切に助言できるようにしていきます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約に際しては、ご本人、ご家族に文面、口頭にて責任者が細部まで説明し、理解、納得を得ています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に関しては、日常生活の中で常に耳を傾け、対応できるようにしています。ご家族は、連絡ノートを活用し、ご意見、要望、苦情などしっかりと受け止め、速やかに対応できるように心掛けています。情報交換の場として、現在家族の会の立ち上げの準備中です。	各居室にある連絡ノートは、家族が意見や要望を伝えやすくなっている。内容に職員がお応えするなど双方向のツールになっている。家族会の立ち上げ準備は順調に進んでいる。	家族からの意見のみではなく要望もより多く聞かせていただけるような工夫を期待します。また、運営推進会議など外部の人にも伝えられるような仕組みづくりも目指して準備に取り組むことを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議、2週間に1回の各部署の責任者会議、毎日の朝・夕のミーティングで、職員からの意見を反映、解決できるようにしています。	日常的に職員はミーティングなどで意見や提案をしやすくなっている。毎月1回の全体会議や2週間に1回の責任者会議では、利用者の状態を詳細に把握している職員の意見が反映できるように話し合われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得などにも積極的に取り組んでおり、代表者の評価と合わせ給料水準などに反映しており向上心につながっています。勤務時間については、各自の希望に合うように努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせた研修が受けられるように、計画的に研修機会を働きかけている。また、研修で学んだことは各職員に伝達し、ケアの実践につながるようにしています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信グループホーム交流会に参加し、研修会や意見交換会を通じ、交流、ネットワーク作りをしています。交流会全体でサービスの質の向上に向けた取り組みをしています。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をしていただき、ニーズの聞き取りを行います。ご家族、以前利用されていた事業所との情報交換を行いながら、ご本人の不安、困りごとと合わせて、安心して生活していただけるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の施設見学を通じ、ニーズの聞き取りを行います。その上でご家族が希望されるサービス提供ができるかどうか、ご本人の生活の場として合うかどうかを伺い、判断していただきます。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複合施設の自施設、他の事業所を問わず、ご本人、ご家族のニーズに合わせて、必要なサービスは何なのかを見極め、インフォーマルサービスも含めた支援の提案をさせていただきます。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活暦、経験を大切にすることを徹底し、スケジュールにとらわれず、「生活をスタッフがお手伝いさせていただく」との考え方を常に意識しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見、希望を伺いながら、ご本人の様子をお伝えして、ご本人とご家族、ご家族とスタッフのコミュニケーションを大切にしています。また、グループホームへ来ていただける機会を多くできるように努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取りを通じ、可能な限り馴染みの場所や人との関係が途切れないように働きかけています。	職員が回想法の技法を向上させながら、なにげない日々の会話の中で聞き取りをする工夫している。アセスメントやモニタリングに反映して断ち切れないように支援している。	話し合いの記録など各会議記録には詳細な内容が記載されていて現状に即したケアの実践もされています。内容によっては介護計画に記載されるような仕組みに期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状態、その日の状況をスタッフがしっかりと把握し、利用者間のコミュニケーションや関わりがはかれるように、空間や時間を作ることを心掛けています。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、電話対応や訪問などができることをお伝えし、体制を整えるようにしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なご本人、ご家族からの聞き取りにより、スタッフ会議、ミーティング等で意見交換をしながら、ご本人の思いを実現できるようにしています。また、普段のご本人の言葉にも常に気を配るようにしています。	職員は、利用者一人ひとりの思いや希望を把握することを大切にしている。職員は日常会話の中で聞き取った情報をカンファレンスやミーティングで共有し本人の思いを実現できるようにしている。アセスメントやモニタリングにも反映させている。	話し合いの記録など各会議記録には詳細な内容が記載されていて現状に即したケアの実践もされています。内容によっては介護計画に記載されるような仕組みに期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力していただきながら聞き取りを行い、生活歴や生活環境をアセスメントシートに記入し、支援につなげられるようにしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの記入、スタッフ会議、ミーティングで把握できるように努め、支援の統一ができるように情報を共有しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議、毎日のミーティングでスタッフの意見交換を行う。その上で、ご本人の満足につながり、意思や思いに配慮された計画作成を心掛けています。	全職員がチームとなっている。担当者会議記録には家族の希望も記録されていて、本人の思いや家族の希望・職員の気づきなどに基づいて話し合いがなされていて、アセスメントとモニタリングが繰り返されている。	話し合いの記録など各会議記録には詳細な内容が記載されていて現状に即したケアの実践もされていますので、設定期間ごとの見直しのみではなく、その都度見直した内容が計画の記録に残ることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録、アセスメントシート、毎日のミーティングで「気づき」を具体化し、共有するように努め、ケアの実践やプランの見直しに反映できるようにしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズに可能な限り対応、支援ができるように心掛けています。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域交流会などを通じ、地域とのつながりや地域資源の活用ができるように努めています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの主治医を継続するか、入居時に委託医へと主治医を変更するかを、ご本人、ご家族の希望にて選択していただく。必要時には相談、話し合いを大切に、納得のいく医療を提供できるようにしています。	入居前からの主治医での継続を希望する方には介護タクシーを使っていただくこともできるが、家族が受診に連れて行く。入居時に委託医に変更する方もいるが、それぞれの意向に応じている。往診・訪問看護があり適切な医療が受けられ、家族とも連携できている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に訪問し、ご本人、スタッフからの訴えに対応しています。健康状態の情報の共有・管理と治療・相談に対応できるように努めています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の退院に向け、病院の医師、ソーシャルワーカー、主治医、ご家族と情報共有できるように努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期についてのご本人、ご家族の希望に対し、できる限り添えるように、主治医、訪問看護師、ご家族と十分に検討し支援しています。	委託医の週一回の往診や週三回の訪問看護があり、医療との連携体制がある。状態に応じて家族とも話し合いながら連携している。連携の様子は個人記録に記載されている。	状態の変化に応じて家族や医療関係者などとの話し合い、その記録が充実している。状態の変化も記録されているので、その時の方針として定まった内容が一目でわかるような工夫があってもよいかと思われます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習、AEDの使用方法についての講習会・訓練を、社内研修で全スタッフが行っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡訓練、避難訓練を実施し有事に備えています。また、地域の方にも訓練への参加を呼びかけ参加していただいています。今後、インフラが壊滅した場合のリスク等についても検討していきたいと考えています。	事業所内にはスプリンクラーが設置されている。運営推進会議からも協力をいただいて年2回の避難訓練を行っている。2回目の訓練は2月に予定。冬季の災害想定避難訓練なので多くの配慮や地域の協力を得て実施する予定。	実施した訓練に対して定期的に改善活動に努めている。夜の想定、地震と火災の同時の想定など、より厳しい想定での備えを研究(訓練やシュミレーション)することに期待します。

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定の尊重と、尊厳を守ることを徹底しています。スタッフのケアの質の向上が権利侵害の防止になると考え、常に意識しながらケア提供をしています。	耳の聞こえが良くない人にはカードをさりげなく提示するなどの工夫をして一人ひとりに合った対応をしている。トイレの入り口は使用中の羞恥心と安全に配慮された工夫された鍵がついている。	職員からの提案でカードを作り活用している。職員によって対応が異なることがないように話し合いや研修も行っている。今後もこのような取り組みをどんどん実践していただきたい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わり、会話において常に意識し、思い・希望などを自ら選択できる方法をとりながら、自己決定を促しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしく、その人のために」を実践できるよう、スタッフはスケジュールにとらわれず、ご本人の自己決定の尊重、個別支援を意識しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好み、季節感、気温などに配慮し、ご家族にも協力を得ながら、衣類、枚数をご本人が選択できるように支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理員が作り、後片付けを利用者に協力していただいています。ゆったりと食事を楽しめる雰囲気作りを心がけています。	複合型施設ならではの魅力がある。調理員が調理室で専属で担当していて、食中毒発生などへの配慮が徹底されている。給食会議が毎月開催され、利用者の好みに応じた食事作りを大切に考えている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個人ごとに日誌に記入し把握できるようにしています。ご本人に合った食事量、形態などに配慮し、食事量が低下している方には好みのものを提供する体制をとっています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援を行い、それぞれの方に合わせた支援をしています。義歯は毎日洗浄剤を用いて消毒し、汚れやにおいが生じないようにしています。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々の排泄パターンの把握に努め、排泄間隔にも配慮しながら排泄介助ができるように努めています。	チェック表で管理しているが、職員は一人ひとりのパターンを把握しながら自立にむけた支援ができています。退院した利用者が徐々にトイレに行かれるようになった事例があり、一人ひとりにあった自立にむけた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事内容、適度な運動に配慮しています。下剤の使用については、主治医の指示のもと、個人の状態に合わせて担当者が責任を持って行うようにしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っていますが、希望される方がいれば、その日以外でも入浴できる体制をとっています。	夏場は週3回・冬場は週2回と基本的な回数は定めているが、利用者の状態に応じた対応をしている。個別の希望にも応じている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠までの導入支援を大切に個別に対応しています。眠剤の服用に関しても主治医と相談しながら支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬に関して把握できるように努めています。主治医、訪問看護師、ご家族と連携し、日々の状態の情報を共有できるようにしています。作用、副作用についても理解できるように努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの「できること」「できないこと」を把握し、スタッフがお手伝いすることで日常生活の中で役割を担っていただくことにより、意欲の向上につながるように努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には花の水やり、植物の世話、散歩などの機会に戸外へ出ています。希望される方は、ご家族の協力で散髪や食事のための外出をされています。行事の際にはボランティアサークルの方に付き添いをお願いしています。	行事参加や外出のための外出がある。外食メニューは利用者の要望に応じている。雪の多い地域なので冬季は日常的に散歩することは難しいが天候を見ながら一日の日課の中で午前か午後には体を動かす時間をとっている。	降雪が続く日もあるので、室内で無理のないような運動ができる工夫に期待します。

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方については、ご家族の了承を得て持っていていただきます。買い物等でお金を使う際には、状態に合わせてスタッフが見守りなどの支援をしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された場合にはいつでも対応できるようにしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどの共有スペースは飾りつけなどを工夫し、季節感をもてるように支援しています。コタツを設置するなどして、それぞれの方が居心地よく過ごせる空間作りを心がけています。	ミニキッチンとワンフロアになっている共有スペースには絵馬が飾り付けられていて、一人ひとりの年頭の願いが書かれています。浴室や洗面所などとの温度差もなく利用者が居心地よく過ごしている。雪だるまのイラストや節分の鬼などが飾られていて季節を感じる工夫が多くある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方は座席の配置などによって配慮しています。コタツを少し離れた場所に設置するなど、ご本人が選択できる環境づくりに努めています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを持ち込んでいただき、ご本人の好みに合わせた家具や物の配置、飾りつけをしていただいています。	一人ひとりの使い慣れた好みの家具などが置かれている。家族も居心地のよく落ち着ける居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握しながら、それぞれの方に合わせた目印をつけたり、居室の位置を検討するなどの工夫をしています。		